

特定外来生物（国内定着種：47種類） 防除の公示（83/105種）

【哺乳類】（国内定着種/特定外来生物：12/21種類）

和名	指定時の状況			指定前の分布記録情報	1 国内で確認されている被害				指定後の分布記録情報の変化	現在の状況					指定による効果等 特記事項 (冒頭に：防除等による成果、：今後の課題)			
	指定理由	国内への導入経路	定着		生態系	2 (RL種)	2 (重要地域)	3人の生命身体		農林水産	輸入規制	4飼養等管理	防除の公示	防除の取組			民間(認定)	
														5国		6 地方公共団体(確認)		
																都道府県		市町村
ハリネズミ属	生態系	商業目的(展示、ペット)	-	静岡県、神奈川県	(捕食)	-	-	-	-	5	環	-	-	-	-			
タイワンザル	生態系・農林水産	商業目的(展示)	-	青森県(下北半島)、東京都(伊豆大島)、静岡県(南伊豆)、和歌山県北部	(交雑)	-	-	-	下北半島では全頭駆除。群馬県(松井田町)で生息情報あり	11	環	環	-	-	-	下北半島では2004年までに全頭が捕獲され、ニホンザルの北限個体群への遺伝子攪乱の危険性が取り除かれた。和歌山県は2002年から捕獲オリなどで交雑個体を含めた駆除を開始し、現在、生息数は大幅に減少している(鳥獣保護法に基づく捕獲)。防除に際し、外見上では区別できないニホンザルのとの交雑個体の取扱が曖昧である。		
アカゲザル	生態系・農林水産	商業目的(展示、実験)	-	千葉県(館山市、南房総市)	(交雑)	-	-	-	変化無し(防除により生息数は減少)	91	環	-	1	-	-	霊長類に対する外来生物法による初めての防除計画の策定(千葉県)。防除に際し、外見上では区別できないニホンザルのとの交雑個体の取扱が曖昧である。		
ヌートリア	生態系・農林水産	商業目的(毛皮)	-	近畿、東海、中国、四国、(東北、北陸、関東でも記録有り)	(捕食)	(1:CE1)	-	-	中国地方や四国(香川県小豆島)などで拡大	8	環	-	-	97	1	防除が継続されている。岡山県では、平成21年度に「ヌートリア集中捕獲事業」として、外来生物法に基づいた捕獲を実施した。有害駆除捕獲と合わせて約5200頭が捕獲された。近隣県、市町村への分布拡大		
クリハラリス	生態系・農林水産	商業目的(展示)	-	神奈川県、静岡県、岐阜県、大阪府、和歌山県、長崎県、東京都(伊豆大島)、大分県	-	-	(富士箱根伊豆)	-	兵庫県、熊本県を始め東北や関東、北陸、近畿、四国での分布の情報あり	12	環	-	-	9	1	防除が実施されている。近隣県、市町村への分布拡大		
マスカラット	生態系	商業目的(毛皮)	-	東京都、千葉県	(捕食)	-	-	-	江戸川流域周辺の埼玉県で生息情報あり	1	環	-	-	-	1	防除が実施されている。		
アライグマ、カニクイアライグマ	生態系・農林水産	商業目的(ペット)	-	全国(愛媛県をのぞく)	(捕食)	(2:VU1,DD1)	(知床、支笏洞爺等)	-	2006年に愛媛県で生息が確認された(日本全県での分布が記録された)	167	環	環	11	345	9	環境省では2005年度から北海道、関東、近畿地方「高密度生息地域」で、2009年度から四国、九州地方「分布拡大の先端地域」において防除モデル事業を実施し、生息状況の把握、捕獲手法の検討、自治体間の情報共有の促進を実施。地方自治体でも駆除が実施され、2005年には全国で約4,000頭が捕獲された。外来生物法に基づく防除を行うための確認・認定を受ける団体が増加した。特に市町村の増加が顕著である。近隣県、市町村への分布拡大。 防除の確認認定件数については、アライグマ・カニクイアライグマの2種で申請している場合、アライグマのみで申請している場合のいずれも「アライグマ・カニクイアライグマ」の1件としてカウントした。		
アメリカミンク	生態系	商業目的(展示)	-	北海道、福島県、長野県、群馬県	(捕食)	-	-	-	宮城県、宮崎県、鹿児島県で分布記録の情報あり	2	環	-	1	116	5	防除が実施されている。		
ジャワマングース	生態系・農林水産	生物農薬(ヘビ類等の駆除)	-	沖縄県(沖縄島)、鹿児島県(奄美大島)	(捕食)	(19:CE1,CR3,EN5,VU6,NT3,LP1)	-	-	鹿児島県鹿児島市で生息情報あり	6	環	環	1	-	-	専門職員(マングースバスターズ)による防除体制を整備、運用している。奄美大島においては、捕獲努力量の増加に伴い、捕獲努力量あたりの捕獲頭数はここ10年で約1/100に低下。沖縄島北部でも、捕獲努力量の増加にもかかわらず、2008年度から捕獲数が減少に転じており、生息数の低下が示唆される。在来種であるトゲネズミやケナガネズミの確認頻度の上昇が報告されている。2012年、これまでのヤンバルクイナ繁殖南限ラインより約3km南に位置する沖縄県東村高江地区にてヤンバルクイナの親子が確認された。低密度で生息するマングースの根絶手法等の技術開発が課題。新たな生息確認地である鹿児島市での発見後報告までの時間差		
シカ亜科(シカ属)	生態系	商業目的(展示)	-	和歌山県(タイワンジカ)	(交雑、食圧)	-	-	-	タイワンジカ：和歌山県友ヶ島には生息。マリアナジカ：小笠原父島では消失。	20	環	-	-	-	-	情報が不足している		
シカ亜科(キョン)	生態系	商業目的(展示)	-	千葉県、東京都(伊豆大島)	(食圧)	-	-	-	千葉県房総半島で生息確認されている9市町のうち、鋸南町、御宿町、いすみ町で拡大	12	環	-	1	-	-	生息が確認されている地域全域について、防除の確認がとられ、計画的な防除が実施されている。法施行により、外来生物に対する意識の向上や対策予算確保が可能となった。また、市町村の生活環境部門(住宅被害)が防除に参画するようになった(千葉県)。防除の実施は狩猟者団体により実施されているが、狩猟者数の減少により捕獲作業を実施できる人材の育成・確保が課題。狩猟鳥獣へ指定されていないため、狩猟で捕獲されたものは全て錯誤捕獲となり、放獣しなければならぬ。積極的な防除を行うために狩猟鳥獣への指定が望まれる(千葉県)		
カニクイザル	生態系・農林水産	商業目的(展示、実験)	-	未定着	-	-	-	-	未定着	145	環	-	-	-	-			
フクロギツネ	生態系	商業目的(展示、ペット)	-	未定着	-	-	-	-	未定着	15	環	-	-	-	-			
タイリクモモンガ	生態系	商業目的(展示、ペット)	-	未定着	-	-	-	-	未定着	12	環	-	-	-	-			
トウハイイロリス	生態系・農林水産	商業目的(展示、ペット)	-	未定着	-	-	-	-	未定着	4	環	-	-	-	-			
キタリス	生態系	商業目的(展示、ペット)	-	未定着	-	-	-	-	恐らく未定着	15	環	-	-	-	-			
シママングース	生態系・農林水産	商業目的(展示)	-	未定着	-	-	-	-	未定着	3		-	-	-	-			
シカ亜科(アキスジカ属、ダマシカ属、シフゾウ)	生態系	商業目的(展示)	-	未定着	-	-	-	-	未定着	26	環	-	-	-	-	飼養等管理個体数内訳：アキスジカ属(6)、ケルヴス属(19)、ダマシカ属(15)、シフゾウ(5)		

1 国内で確認されている被害では、生態系への影響を「生態系」、人の生命身体への影響を「人の生命身体」、農林水産業への影響を「農林水産」として表記した。
 2 生態系被害については、指定時の個票と環境省RL種への指定理由の記述よりと被害理由を記した。また、環境省RL種への被害が確認されているもの(以下にRDB上で被害があると記載されている種数とカテゴリ別種数を記入した)、国立公園地域にて生態系への被害が確認されているものを別に示した。
 3 感染症による被害は含まない。
 4 各欄の数字は飼養等の許可件数を表している(平成24年3月31日まで)。
 5 国による防除の取組について、防除の主体毎に環(環境省)、農(農林水産省)、国(国土交通省)と区別した。
 6 各欄の数字は確認・認定数を表している(平成24年3月31日現在)。

【鳥類】（国内定着種/特定外来生物：4/4種類）

和名	指定時の状況			指定前の分布記録情報	現在の状況													
	指定理由	国内への導入経路	定着		1 国内で確認されている被害				指定後の分布記録情報の変化	輸入規制	4飼養等管理	防除の公示	防除の取組				指定による効果等 特記事項 (冒頭に：防除等による成果、：今後の課題)	
					生態系	2 (RL種)	2 (重要地域)	3人の生命身体					農林水産	5国	6 地方公共団体(確認)	民間(認定)		
ガビチョウ	生態系	商業目的(ペット)		九州・関東を中心に13都県	(競合)	-	-	-	-	静岡県、三重県、島根県、宮崎県		6	環	-	-	-	-	
カオジロガビチョウ	生態系	商業目的(ペット)		群馬県南東部	(競合)	-	-	-	-	栃木県、茨城県の一部に分布拡大(分布は局地的。拡大速度は大きくない)		1	環	-	-	-	-	
カオグロガビチョウ	生態系	商業目的(ペット)		岩手県、埼玉県、東京都、神奈川県、長野県	(競合)	-	-	-	-	少しずつ分布を拡大(分布は局地的。拡大速度は大きくない)		1	環	-	-	-	-	
ソウシチョウ	生態系	商業目的(ペット)、商業目的(化粧品)		四国や九州、本州西部の23都府県	-	-	-	-	-	関東以西の36都府県		27	環	環	-	-	-	平成22年7月に「防除に関する計画策定及び実証」に関する活動支援の採択がなされた

- 1 国内で確認されている被害では、生態系への影響を「生態系」、人の生命身体への影響を「人の生命身体」、農林水産業への影響を「農林水産」として表記した。
- 2 生態系被害については、指定時の個票と環境省RL種への指定理由の記述よりと被害理由を記した。また、環境省RL種への被害が確認されているもの(以下にRDB上で被害があると記載されている種数とカテゴリ別種数を記入した)、国立公園地域にて生態系への被害が確認されているものを別に示した。
- 3 感染症による被害は含まない。
- 4 各欄の数字は飼養等の許可件数を表している(平成24年3月31日まで)。
- 5 国による防除の取組について、防除の主体毎に環(環境省)、農(農林水産省)、国(国土交通省)と区別した。
- 6 各欄の数字は確認・認定数を表している(平成24年3月31日現在)。

【爬虫類】（国内定着種/特定外来生物：4/13種類）

和名	指定時の状況			指定前の分布記録情報	現在の状況													
	指定理由	国内への導入経路	定着		1 国内で確認されている被害				指定後の分布記録情報の変化	輸入規制	4飼養等管理	防除の公示	防除の取組				指定による効果等 特記事項 (冒頭に：防除等による成果、：今後の課題)	
					生態系	2 (RL種)	2 (重要地域)	3人の生命身体					農林水産	5国	6 地方公共団体(確認)	民間(認定)		
カミツキガメ	生態系・人の生命身体	商業目的(展示、ペット)		東京都、千葉県(定着が確認されている都県。発見情報は多くの道府県から報告されている)	(捕食)	-	-	-	-	定着情報はないものの、各地で遺棄されたと思われる個体が発見捕獲されている 【人為的な分布拡大】 違法飼育個体の放逐による分布拡大が懸念される		292	環	環	1	0	4	印旛沼地域でモデル事業を実施(生息状況調査、捕獲手法開発、根絶モデル、等)。産卵場所等を効率よく発見するための探索犬の開発とその実証調査が実施されている 印旛沼水系においては、集中的な捕獲による密度低下 遺棄と考えられる放逐個体の増加。潜在的な遺棄個体の供給源として多くの違法飼育個体が存在する可能性が高い
グリーンアノール	生態系	商業目的(ペット)、物資混入(非意図的)		東京都(小笠原諸島：父島、母島)、沖縄県(沖縄島)	(捕食、競合)	(37:CR8, VU14, NT9, DD6)	(小笠原)	-	-	遮断柵(母島)内では低減化がみられる		6	環	環	-	-	-	特定外来生物への指定により、生態系への悪影響について理解が進み、防除事業が進めやすくなった 拡散防止のための主要港での低密度管理(集中捕獲、生息場所管理、等)。他島への侵入阻止 効率的な捕獲のための粘着式トラップの開発と運用 科学的検証に基づいた侵入防止柵の開発と設置、実証調査が実施されている 自然再生区からの排除試験(遮断柵・集中捕獲) 科学研究の推進(個体群動態、根絶モデル) 生物学的情報の不足 効率的な防除方法(誘引トラップや毒餌等)がコントロールする技術が未開発であるため、根絶に向けた防除が困難である
タイワンスジオ	生態系	商業目的(展示、ペット)		沖縄県(沖縄島中部)	-	(1:NT1)	-	-	-	変化はほとんどない		7	環	-	-	-	-	防除が実施されている 環境省那覇自然環境事務所は2011年買い上げによる防除を開始した
タイワンハブ	生態系	商業目的(展示、食用等)		沖縄県(沖縄島北部)	-	-	-	-	-	変化はほとんどない		2	環	-	-	-	-	防除が実施されている 在来ハブとの交雑個体の確認 本種による咬傷被害が確認されている
アノリス・アルログス	生態系	学術研究	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着		-	-	-	-	-	-	未判定外来生物より特定外来生物に指定(2011年7月1日施行)
アノリス・アルタケウス	生態系	学術研究	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着		-	-	-	-	-	-	未判定外来生物より特定外来生物に指定(2011年7月1日施行)
アノリス・アングスティゲプス	生態系	商業目的(ペット)	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着		4	-	-	-	-	-	
ナイトアノール	生態系	商業目的(ペット)	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着		-	-	-	-	-	-	
ガーマンアノール	生態系	商業目的(ペット)	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着		-	-	-	-	-	-	
アノリス・ホモレキス	生態系	学術研究	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着		-	-	-	-	-	-	未判定外来生物より特定外来生物に指定(2011年7月1日施行)
ブラウアノール	生態系	商業目的(ペット)	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着		2	環	-	-	-	-	
ミドリオオガシラ	生態系	商業目的(ペット)	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着		1	環	-	-	-	-	
イヌバオオガシラ	生態系	商業目的(ペット)	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着		-	-	-	-	-	-	
マングロープヘビ	生態系	商業目的(ペット)	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着		1	-	-	-	-	-	
ミナミオオガシラ	生態系	商業目的(ペット)	-	未定着(沖縄本島で捕獲例あり)	-	-	-	-	-	未定着		2	-	-	-	-	-	
ボウシオオガシラ	生態系	商業目的(ペット)	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着		-	-	-	-	-	-	

- 1 国内で確認されている被害では、生態系への影響を「生態系」、人の生命身体への影響を「人の生命身体」、農林水産業への影響を「農林水産」として表記した。
- 2 生態系被害については、指定時の個票と環境省RL種への指定理由の記述よりと被害理由を記した。また、環境省RL種への被害が確認されているもの(以下にRDB上で被害があると記載されている種数とカテゴリ別種数を記入した)、国立公園地域にて生態系への被害が確認されているものを別に示した。
- 3 感染症による被害は含まない。
- 4 各欄の数字は飼養等の許可件数を表している(平成24年3月31日まで)。
- 5 国による防除の取組について、防除の主体毎に環(環境省)、農(農林水産省)、国(国土交通省)と区別した。
- 6 各欄の数字は確認・認定数を表している(平成24年3月31日現在)。

【両生類】（国内定着種/特定外来生物：3/11種類）

和名	指定時の状況			指定前の分布記録情報	1 国内で確認されている被害				指定後の分布記録情報の変化	現在の状況						指定による効果等 特記事項 (冒頭に : 防除等による成果、 : 今後の課題)		
	指定理由	国内への導入経路	定着		生態系	2 (RL種)	2 (重要地域)	3 人の生命身体		農林水産	輸入規制	4 飼養等管理	防除の公示	防除の取組			民間(認定)	
														5 国	6 地方公共団体(確認)			
												都道府県	市町村					
オオヒキガエル	生態系	生物農薬(害虫駆除)、商業目的(ペット)		東京都(小笠原諸島:父島・母島)、沖縄県(大東諸島:北大東島・南大東島、八重山諸島:石垣島・鳩間島)、沖縄県(八重山諸島:西表島)で確認例があるが未定着	(捕食)	(3:CE2,NT1)	(西表石垣)	-	-	沖縄県(八重山諸島:鳩間島)で根絶(2007年) 沖縄県(八重山諸島:波照間島)で確認(2例)されたが未定着 【人為的な分布拡大】 国内の定着地から物資に紛れての移動による非意図的な分布拡大が懸念される	9	環	環	-	-	-	防除作業(個体の排除と繁殖阻止)により鳩間島での根絶完了(2007年) 監視体制の構築と普及の効果により、西表島における侵入時の早期発見と定着阻止 普及の効果により、波照間島における侵入時の早期発見と定着阻止 高密度生息地における防除が困難 繁殖力が強く、生息数を低減化させても持続的に事業を行わなければ短期間で生息数が回復する 供給源となる島嶼から排除されない限り、新たな定着地防止のための監視調査を終了できない	
ウシガエル	生態系	商業目的(食用)		全国に分布	(捕食)	(3:CR2,VU2)	(小笠原)	-	-	東京都(小笠原諸島:弟島)で根絶(2009年) 【人為的な分布拡大】 特定外来生物として認識されないで飼育(オタマジャクシ)されている事例が多いと考えられる	431	環	環	-	-	4	防除作業(個体の排除と繁殖阻止)により弟島での根絶完了(2009年)	
シロアゴガエル	生態系	物資混入(非意図的)		沖縄本島とその周辺島嶼、宮古島とその周辺島嶼、石垣島	-	-	(西表石垣)	-	-	2007年沖縄県(八重山諸島:石垣島)への定着確認と分布拡大 2008年沖縄県(粟国島)への定着確認 【人為的な分布拡大】 国内の定着地から物資に紛れての移動による非意図的な分布拡大が懸念される	3	環	環	-	-	-	石垣島で防除が実施されている 物陰に潜んでいるため、生息地における防除が困難 定着地における拡大速度が速く、初期防除による封じ込めが困難	
ブレーズヒキガエル	生態系	商業目的(ペット)	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着	-		-	-	-	-		
キンイロヒキガエル	生態系	商業目的(ペット)	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着	-		-	-	-	-		
アカボシヒキガエル	生態系	商業目的(ペット)	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着	1		-	-	-	-		
オークヒキガエル	生態系	商業目的(ペット)	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着	-		-	-	-	-		
テキサスヒキガエル	生態系	商業目的(ペット)	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着	-		-	-	-	-		
コノハヒキガエル	生態系	商業目的(ペット)	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着	1		-	-	-	-		
キューバスツギガエル	生態系	商業目的(ペット)	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着	1	環	-	-	-	-		
コキーコヤスガエル	生態系	商業目的(ペット)	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着	-	環	-	-	-	-		

1 国内で確認されている被害では、生態系への影響を「生態系」、人の生命身体への影響を「人の生命身体」、農林水産業への影響を「農林水産」として表記した。

2 生態系被害については、指定時の個票と環境省RL種への指定理由の記述よりと被害理由を記した。また、環境省RL種への被害が確認されているもの(以下にRDB上で被害があると記載されている種数とカテゴリ別種数を記入した)、国立公園地域にて生態系への被害が確認されているものを別に示した。

3 感染症による被害は含まない。

4 各欄の数字は飼養等の許可件数を表している(平成24年3月31日まで)。

5 国による防除の取組について、防除の主体毎に環(環境省)、農(農林水産省)、国(国土交通省)と区別した。

6 各欄の数字は確認・認定数を表している(平成24年3月31日現在)。

【魚類】（国内定着種/特定外来生物：5/13種類）

和名	指定時の状況			指定前の分布記録情報	1 国内で確認されている被害					指定後の分布記録情報の変化	現在の状況						指定による効果等 特記事項 (冒頭に：防除等による成果、：今後の課題)	
	指定理由	国内への導入経路	定着		生態系	2 (RL種)	2 (重要地域)	3 人の生命身体	農林水産		輸入規制	4 飼養等管理	防除の公示	防除の取組				
														5 国	6 地方公共団体(確認)			民間(認定)
															都道府県	市町村		
チャネルキャットフィッシュ	生態系	商業目的(食用)		茨城県	(捕食)	-	-			福島県、栃木県、埼玉県、千葉県、東京都、滋賀県、島根県 現在では霞ヶ浦に接続する利根川水系の河川をはじめ、阿武隈川や琵琶湖など分布は緩やかな拡大傾向にある	60	環	農	-	-		現在、調査研究や漁業者による駆除が行われている 水系を越えて移動が起きているため、分布拡大には人為による意図的あるいは非意図的な導入があると考えられる	
カダヤシ	生態系	商業目的(ペット)		新潟県、福島県以南の各都府県で確認	(競合、捕食)	(1:VU1)	-	-	-	変化はほとんどない	53	環	-	-	-	3	意図的な放流の禁止 特定外来生物として認識されずに違法飼育されている個体が存在する可能性が高い	
ブルーギル	生態系	商業目的(食用)		山形県を除く全国	(捕食)	(24:CE2,CR6,EN8,VU7,NT1)	(富士箱根伊豆、雲仙天草等)		-	変化はほとんどない	125	環	環・農	1	1	3	おとりを利用した効率的な捕獲方法の発見 琵琶湖野田沼において効果的な捕獲手法検討のためのモデル事業実施	
コクチバス	生態系	商業目的(娯楽、食用)	-	京都府、大阪府、兵庫県、鳥取県、山口県、沖縄県を除く、全都道府県	(捕食)	(1:EN1)	(磐梯朝日、日光等)		-	指定時は湖沼での定着記録が主だったが、最近では流水域においても繁殖が確認され、定着している箇所があると思われる 【人為的な分布拡大】 遊漁目的による密放流が続いている可能性がある	27	環	環・農	1	-	1	栃木県中禅寺湖では早期発見・早期駆除により根絶された 福島県小野川湖、茨城県那珂川、長野県青木湖、岐阜県伊自良湖、新潟県信濃川などで防除が実施されている 水産庁によって繁殖抑制技術や在来魚の捕食圧を利用した駆除などが考案され、「湖沼における繁殖抑制マニュアル」も公表されている 水系を越えて分布を拡大しており、本種の卵は他魚種の種苗に混じる可能性は低い ため、分布の拡大の背景には人為的な放流が行われていた可能性がある。 経済動物としての利用を考える自治体との調整	
オオクチバス	生態系	商業目的(娯楽、食用)		全国	(捕食)	(39:CE6,CR9,EN8,VU8,NT5,DD1,LP2)	(上信越高原、雲仙天草等)		-	北海道で根絶(2007年) 一部の生息地では個体数の減少などがみられる 【人為的な分布拡大】 遊漁目的による密放流が続いている可能性がある	173	環	環・農	1	1	3	モデル事業を実施し、「地域におけるオオクチバス等防除の取組みにむけて」(防除の考え方、環境省モデル事業の事例)を作成・配布 防除作業により北海道での根絶完了(2007年) ため池など水抜きによる防除技術の実践とそれによる多数の根絶事例 電気ショック、人工産卵床の設置による防除技術の確立。 フェロモン(オスの胆汁)を利用したメス個体の効率的な誘因と捕獲方法の発見 意図的な放流による分布の拡大 経済動物としての利用を考える自治体との調整 実施されたモデル事業について、専門家の協力を得て、また各地で行われている取組を広域的な連携でつないだ、より戦略的な実施	
ノーザンバイク	生態系	商業目的(ペット)	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着		2	環	-	-	-	-	
マスキーバイク	生態系	商業目的(ペット)	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着		-	環	-	-	-	-	
ストライプトバス	生態系	商業目的(娯楽)	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着		8	環	-	-	-	-	
ホワイトバス	生態系	商業目的(娯楽)	-	未定着 (本種とストライプトバスとの雑種である「サンシャインバス」は釣り目的で導入された記録有り)	-	-	-	-	-	未定着		-	環	-	-	-	-	
ヨーロピアンパーチ	生態系	商業目的(ペット)	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着		-	環	-	-	-	-	
バイクパーチ	生態系	商業目的(ペット)	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着		-	環	-	-	-	-	
ケツギョ	生態系	商業目的(ペット)	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着		5	環	-	-	-	-	
コウライケツギョ	生態系	商業目的(ペット)	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着		4	環	-	-	-	-	

1 国内で確認されている被害では、生態系への影響を「生態系」、人の生命身体への影響を「人の生命身体」、農林水産業への影響を「農林水産」として表記した。

2 生態系被害については、指定時の個票と環境省RL種への指定理由の記述よりと被害理由を記した。また、環境省RL種への被害が確認されているもの(以下にRDB上で被害があると記載されている種数とカテゴリ別種数を記入した)、国立公園地域にて生態系への被害が確認されているものを別に示した。

3 感染症による被害は含まない。

4 各欄の数字は飼養等の許可件数を表している(平成24年3月31日まで)。

5 国による防除の取組について、防除の主体毎に環(環境省)、農(農林水産省)、国(国土交通省)と区別した。

6 各欄の数字は確認・認定数を表している(平成24年3月31日現在)。

【クモ・サソリ類】（国内定着種/特定外来生物：3/5種類）

和名	指定時の状況			指定前の分布記録情報	1 国内で確認されている被害				指定後の分布記録情報の変化	現在の状況						指定による効果等 特記事項 (冒頭に : 防除等による成果、 : 今後の課題)				
	指定理由	国内への導入経路	定着		生態系	2 (RL種)	2 (重要地域)	3人の生命身体		農林水産	輸入規制	4飼養等管理	防除の公示	防除の取組			5国	6 地方公共団体 (確認) 都道府県 市町村	民間 (認定)	
														5国	6 地方公共団体 (確認) 都道府県					市町村
ハイイログケグモ	人の生命身体	物資混入 (非意図的)		東京都、神奈川県、愛知県、大阪府、兵庫県、山口県、福岡県、沖縄県	-	-	-	-	岡山県、鹿児島県、宮崎県 【人為的な分布拡大】 海外の生息地や国内の定着地から物資に紛れての移動による非意図的な分布拡大が懸念される		1	環	-	-	-	-	物陰に潜む性質のため発見が難しく、効率的な防除が困難。			
セアカゴケグモ	人の生命身体	物資混入 (非意図的)		大阪府、三重県、兵庫県、和歌山県、奈良県、山口県、沖縄県、	-	-	-	-	宮城県 (偶産)、群馬県 (偶産)、愛知県、滋賀県、京都府、岡山県、福岡県、宮崎県、鹿児島県 【人為的な分布拡大】 海外の生息地や国内の定着地から物資に紛れての移動による非意図的な分布拡大が懸念される		6	環	-	-	-	-	物陰に潜む性質のため発見が難しく、効率的な防除が困難。 大阪等より複数の咬傷事例が報告されている。			
クロゴケグモ	人の生命身体	物資混入 (非意図的)		山口県	-	-	-	-	変化はほとんどない 【人為的な分布拡大】 海外の生息地や国内の定着地から物資に紛れての移動による非意図的な分布拡大が懸念される		-	環	-	-	-	-	物陰に潜む性質のため発見が難しく、効率的な防除が困難。			
キョクトウサソリ科の全種	人の生命身体	商業目的 (ペット)、物資混入 (非意図的)	-	未定着	-	-	-	-	未定着		-	環	-	-	-	-				
ソウワゴクモ科 (Hexathelidae) のうち、 <i>Atrax</i> 属及び <i>Hadronyche</i> 属の全種	人の生命身体	物資混入 (非意図的)	-	未定着	-	-	-	-	未定着		-	環	-	-	-	-				
イトグモ属 (<i>Loxosceles</i>) のうち、 <i>L. reclusa</i> 、 <i>L. laeta</i> 、 <i>L. gaucho</i>	人の生命身体	物資混入 (非意図的)	-	未定着	-	-	-	-	未定着		-	環	-	-	-	-				
ジュウサンボシゴケグモ	人の生命身体	物資混入 (非意図的)	-	未定着	-	-	-	-	未定着		-	環	-	-	-	-				

クモ・サソリ類は、サソリは科単位、クモは属単位で1種類と数える (キョクトウサソリ科、ソウワゴクモ科 (*Atrax* 属、*Hadronyche* 属)、*Loxosceles* (イトグモ) 属 (3種)、*Latrodectus* (ゴケグモ) 属 (4種))

- 1 国内で確認されている被害では、生態系への影響を「生態系」、人の生命身体への影響を「人の生命身体」、農林水産業への影響を「農林水産」として表記した。
- 2 生態系被害については、指定時の個票と環境省RL種への指定理由の記述より と被害理由を記した。また、環境省RL種への被害が確認されているもの (以下にRDB上で被害があると記載されている種数とカテゴリ別種数を記入した)、国立公園地域にて生態系への被害が確認されているものを別に示した。
- 3 感染症による被害は含まない。
- 4 各欄の数字は飼養等の許可件数を表している (平成24年3月31日まで)。
- 5 国による防除の取組について、防除の主体毎に環 (環境省)、農 (農林水産省)、国 (国土交通省) と区別した。
- 6 各欄の数字は確認・認定数を表している (平成24年3月31日現在)。

【甲殻類】（国内定着種/特定外来生物：1/5種類）

和名	指定時の状況			指定前の分布記録情報	1 国内で確認されている被害				指定後の分布記録情報の変化	現在の状況						指定による効果等 特記事項 (冒頭に : 防除等による成果、 : 今後の課題)				
	指定理由	国内への導入経路	定着		生態系	2 (RL種)	2 (重要地域)	3人の生命身体		農林水産	輸入規制	4飼養等管理	防除の公示	防除の取組			5国	6 地方公共団体 (確認) 都道府県 市町村	民間 (認定)	
														5国	6 地方公共団体 (確認) 都道府県					市町村
ウチダザリガニ (垂種タンカイザリガニを含む)	生態系	水産資源		北海道、福島県、石川県、長野県、滋賀県	(競合)			-	千葉県 (2009年) 北海道では分布域拡大		34	環	-	-	9	18	北海道の洞爺湖などではカゴわなを用いた防除や調査が行われている 千葉県でも防除や調査が進められている			
<i>Astacus</i> 属の全種	生態系	商業目的 (食用、ペット)	-	未定着	-	-	-	-	未定着		1	環	-	-	-	-				
ラストティークレイフィッシュ	生態系	商業目的 (ペット)	-	未定着	-	-	-	-	未定着		-	環	-	-	-	-				
<i>Cherax</i> 属の全種	生態系	商業目的 (ペット)	-	未定着	-	-	-	-	未定着		23	環	-	-	-	-				
モクスガニ属の全種	生態系	商業目的 (食用)	-	未定着 (ただし2004年に、東京湾で2個体が発見された例がある)	-	-	-	-	未定着		157	環	-	-	-	-				

- 1 国内で確認されている被害では、生態系への影響を「生態系」、人の生命身体への影響を「人の生命身体」、農林水産業への影響を「農林水産」として表記した。
- 2 生態系被害については、指定時の個票と環境省RL種への指定理由の記述より と被害理由を記した。また、環境省RL種への被害が確認されているもの (以下にRDB上で被害があると記載されている種数とカテゴリ別種数を記入した)、国立公園地域にて生態系への被害が確認されているものを別に示した。
- 3 感染症による被害は含まない。
- 4 各欄の数字は飼養等の許可件数を表している (平成24年3月31日まで)。
- 5 国による防除の取組について、防除の主体毎に環 (環境省)、農 (農林水産省)、国 (国土交通省) と区別した。
- 6 各欄の数字は確認・認定数を表している (平成24年3月31日現在)。

【昆虫類】（国内定着種/特定外来生物：3/8種類）

和名	指定時の状況			指定前の分布記録情報	1 国内で確認されている被害					指定後の分布記録情報の変化	現在の状況					指定による効果等 特記事項 (冒頭に : 防除等による成果、 : 今後の課題)		
	指定理由	国内への導入経路	定着		生態系	2 (RL種) 2 (重要地域)		3人の生命身体	農林水産		輸入規制	4飼養等管理	防除の公示	防除の取組				
						5国	6 地方公共団体 (確認) 都道府県							民間 (認定) 市町村				
セイヨウオオマルハナバチ	生態系	商業目的 (農業資材)		北海道	(競合、受粉阻害)	-	(知床、大雪等)	-	-	変化はほとんどない 【人為的な分布拡大】 不適切な飼養等により野外に逸出した個体や指定前に野外に定着していた個体群による分布拡大が懸念される		13768	環	-	1	-	1	逸出防止のための適切な飼養等に関する検査や指導が実践されている。 不適切な飼養事例が確認されている
アカカミアリ	生態系・人の生命身体	物資混入 (非意図的)		硫黄島	(競合、捕食)	-	-	-	-	おがさわら丸の船上で交尾済のメス個体が発見された事例がある 輸入荷物に紛れた個体が発見される事例がある 【人為的な分布拡大】 海外の生息地や国内の定着地から物資に紛れての移動による非意図的な分布拡大が懸念される		1	環	-	-	-	-	水際の侵入防止対策として、植防などへの識別マニュアルの配布、確認時の連絡など協力体制の確立。 非意図的な侵入を防止するためのモニタリング調査が開始された。 非意図的な侵入のおそれが高い
アルゼンチンアリ	生態系	物資混入 (非意図的)		広島県、山口県、兵庫県	(競合、捕食)	-	-	-	-	神奈川県 (2007年)、愛知県 (2006年)、岐阜県 (2007年)、京都府 (2009年)、大阪府 (2008年)、徳島県徳島市 (2010年9月)、東京都 (2010年10月) 【人為的な分布拡大】 海外の生息地や国内の定着地から物資に紛れての移動による非意図的な分布拡大が懸念される。 特に、海外から輸入される果物や植木、切花に付着している事例が確認されている		11	環	環	-	-	-	識別マニュアルやモデル事業の実施、防除マニュアルの作成。 水際の侵入防止対策として、植防などへのマニュアルの配布、確認時の連絡など協力体制の確立。 非意図的な侵入を防止するためのモニタリング調査が開始された。 横浜の港湾における根絶事業では、根絶寸前となっている。 非意図的な侵入の危険性が高い。 適切な防除を行っていない定着地が各地への分布拡大の供給源となるおそれが高い。
テナガコガネ属の全種	生態系	商業目的 (ペット)	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着		-	環	-	-	-	-	
クモテナガコガネ属 (ドウナガテナガコガネ属) の全種	生態系	商業目的 (ペット)	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着		-	環	-	-	-	-	
ヒメテナガコガネ属の全種	生態系	商業目的 (ペット)	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着		-	環	-	-	-	-	
ヒアリ	生態系・人の生命身体	物資混入 (非意図的)	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着		1	環	-	-	-	-	パンフレットの作成と税関等への配布実施し、侵入阻止のための体制作りが進んでいる。
コカミアリ	生態系・人の生命身体	物資混入 (非意図的)	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着		1	環	-	-	-	-	税関等との協力により侵入阻止のための体制作りが進んでいる。

- 1 国内で確認されている被害では、生態系への影響を「生態系」、人の生命身体への影響を「人の生命身体」、農林水産業への影響を「農林水産」として表記した。
- 2 生態系被害については、指定時の個票と環境省RL種への指定理由の記述より と被害理由を記した。また、環境省RL種への被害が確認されているもの (以下にRDB上で被害があると記載されている種数とカテゴリ別種数を記入した)、国立公園地域にて生態系への被害が確認されているものを別に示した。
- 3 感染症による被害は含まない。
- 4 各欄の数字は飼養等の許可件数を表している (平成24年3月31日まで)。
- 5 国による防除の取組について、防除の主体毎に環 (環境省)、農 (農林水産省)、国 (国土交通省) と区別した。
- 6 各欄の数字は確認・認定数を表している (平成24年3月31日現在)。

【軟体動物等】（国内定着種/特定外来生物：3/5種類）

和名	指定時の状況			指定前の分布記録情報	1 国内で確認されている被害					指定後の分布記録情報の変化	現在の状況					指定による効果等 特記事項 (冒頭に : 防除等による成果、 : 今後の課題)		
	指定理由	国内への導入経路	定着		生態系	2 (RL種) 2 (重要地域)		3人の生命身体	農林水産		輸入規制	4飼養等管理	防除の公示	防除の取組				
						5国	6 地方公共団体 (確認) 都道府県							民間 (認定) 市町村				
カワヒバリガイ属の全種	生態系	物資混入 (輸入シジミ、非意図的)		群馬県、茨城県、静岡県、岐阜県、滋賀県、愛知県	(寄生中媒介)	-	-	-	-	非意図的な分布の拡大。		5	環	-	-	-	-	効果的な防除方法が確立されていない
ヤマヒタチオビ (オカヒタチオビガイ)	生態系	生物農薬 (アフリカマイマイ駆除)		東京都 (小笠原諸島：父島)	(捕食)	-	(小笠原)	-	-	変化はほとんどない		1	環	-	-	-	-	効果的な防除方法が確立されていない
ニューギニアヤリガタリクウスムシ	生態系	物資混入 (植物や土壌、非意図的)		東京都 (小笠原諸島：父島)、沖縄県 (沖縄諸島：沖縄島・久米島・伊良部島・伊計島・平安座島、宮古諸島：宮古島・伊良部島)	(捕食)	-	(小笠原)	-	-	変化はほとんどない		2	環	-	-	-	-	アフリカマイマイ駆除対策の手段として検討されたこともあり、本種の特定外来生物への指定は意図的導入のプレーキとなり、大変有効であった 効果的な防除方法が確立されていない
クワツガガイ	生態系	ハラスト水 (非意図的)	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着		-	環	-	-	-	-	
カワホトトギスガイ	生態系	ハラスト水 (非意図的)	-	未定着	-	-	-	-	-	未定着		-	環	-	-	-	-	

- 1 国内で確認されている被害では、生態系への影響を「生態系」、人の生命身体への影響を「人の生命身体」、農林水産業への影響を「農林水産」として表記した。
- 2 生態系被害については、指定時の個票と環境省RL種への指定理由の記述より と被害理由を記した。また、環境省RL種への被害が確認されているもの (以下にRDB上で被害があると記載されている種数とカテゴリ別種数を記入した)、国立公園地域にて生態系への被害が確認されているものを別に示した。
- 3 感染症による被害は含まない。
- 4 各欄の数字は飼養等の許可件数を表している (平成24年3月31日まで)。
- 5 国による防除の取組について、防除の主体毎に環 (環境省)、農 (農林水産省)、国 (国土交通省) と区別した。
- 6 各欄の数字は確認・認定数を表している (平成24年3月31日現在)。

【植物】（国内定着種/特定外来生物：11/12種類）

和名	指定時の状況			指定前の分布記録情報	1 国内で確認されている被害				指定後の分布記録情報の変化	現在の状況						指定による効果等 特記事項 (冒頭に : 防除等による成果、 : 今後の課題)		
	指定理由	国内への導入経路	定着		生態系	2 (RL種)	2 (重要地域)	3 人の生命身体		農林水産	輸入規制	4 飼養等管理	防除の公示	防除の取組			民間(認定)	
														5 国	6 地方公共団体(確認)			
															都道府県			市町村
オオキンケイギク	生態系	商業目的(鑑賞用、緑化用)		全国	(競合、駆逐)	-	-	-		6	環・国	国	8	9	5	除去実験では、カワラヨモギなどの河原の固有種が回復 ワイルドフラワー緑化などの意図的な利用の防止 特定外来生物として認識されずに栽培 近縁の類似種ホソバハルシャギク(コレオプシス・グランディフロラ)の普及 水流散布の種子と地下茎で繁殖、分布拡大するため、根絶が困難		
ミズヒマワリ	生態系	商業目的(鑑賞用)		関東以西の12都道府県	(競合、駆逐)	-	-	-		8	環	-	5	4	1	琵琶湖では分布拡大を抑制 水質浄化や観賞用への意図的な利用の防止 栄養繁殖が旺盛(茎や葉の断片から再生)で、種子繁殖も行うため、根絶が困難		
オオハンゴンソウ	生態系	商業目的(鑑賞用)		全国	(競合、駆逐)	-	(磐梯朝日、日光等)	-		7	環・国	環・国	9	13	14	日光国立公園では、戦場ヶ原の内部は根絶され在来種が回復 外来植物の問題に関する普及啓発 各地の取り組みで、分布拡大の抑制 特定外来生物として認識されずに栽培されている可能性がある 自然度の高い、寒冷、冷涼地の湿原に繁茂するため、生態系への影響が大きい 種子と地下茎で繁殖するため、根絶が困難		
ナルトサワギク	生態系	物資混入(非意図的)		14都道府県	-	-	-	-		5	環・国	環・国	6	5	4	園芸植物としての意図的な利用の予防 特定外来生物として認識されずに栽培されている可能性がある 風散布の種子で繁殖、分布拡大するため、根絶が困難		
オオカワジシャ	生態系	物資混入(非意図的)		本州を中心に広範囲	(交雑)	-	-	-		4	環・国	国	7	6	3	意図的な利用の予防 微細な種子で繁殖、分布拡大するので、根絶が困難		
ナガエツルノゲイトウ	生態系	商業目的(鑑賞用)		関東以西の10都道府県	-	-	-	-		3	環	-	5	1	-	意図的な利用の予防 水中から陸上まで生育でき、栄養繁殖(茎の断片から再生)が旺盛なため、根絶が困難		
ブラジルチドメグサ	生態系	商業目的(鑑賞用)		南部の4県	-	-	-	-		3	環	-	-	-	-	意図的な利用の予防 栄養繁殖が旺盛(茎の断片から再生)で、種子で繁殖するため、根絶が困難		
アレチウリ	生態系	物資混入(非意図的)		全国	(競合、駆逐)	-	-	-		16	環・国	国	10	11	4	外来植物の問題に関する普及啓発 各地の取り組みで一部は分布拡大の抑制? 生長が早く、種子で繁殖するため、根絶が困難		
オオフサモ	生態系	商業目的(鑑賞用)		北部を除きほぼ全国	-	-	-	-		13	環	-	7	4	3	水質浄化などの意図的な利用の防止 特定外来生物として認識されずに栽培 栄養繁殖が旺盛(茎の断片から再生)なため、根絶が困難		
ボタンウキクサ	生態系	商業目的(鑑賞用)		関東以西	-	-	-	-		18	環	-	2	1	1	水質浄化などの意図的な利用の防止 大阪淀川のワンドでは、生育を抑制 栄養繁殖が旺盛(子株で増殖)で、種子で越冬、繁殖するため、根絶が困難		
アソラ・クリスタータ	生態系	商業目的(合鴨農法)		宮城県-佐賀県の各地	(交雑、競合、駆逐)	-	-	-		6	環	-	1	1	2	合鴨農法などでの意図的な利用の防止 近縁の絶滅危惧種との識別 植物体が微細で、栄養繁殖が旺盛なため、根絶が困難		
スバルティナ・アングリカ	生態系	バラスト水(非意図的)	-	未定着	-	-	-	-	未定着	1	環	-	-	-	-	近縁種である「スバルティナ・アルテルニフロラ」の定着が、熊本県(2010年確認)と愛知県(2008年採取、2011年確認)で確認された。 「スバルティナ・アルテルニフロラ」について、愛知県では2011年度より調査や防除を実施するとともに、2012年には放出を禁止する条例公表種に指定した。		

1 国内で確認されている被害では、生態系への影響を「生態系」、人の生命身体への影響を「人の生命身体」、農林水産業への影響を「農林水産」として表記した。

2 生態系被害については、指定時の個票と環境省RL種への指定理由の記述より と被害理由を記した。また、環境省RL種への被害が確認されているもの(以下にRDB上で被害があると記載されている種数とカテゴリ別種数を記入した)、国立公園地域にて生態系への被害が確認されているものを別に示した。

3 感染症による被害は含まない。

4 各欄の数字は飼養等の許可件数を表している(平成24年3月31日まで)。

5 国による防除の取組について、防除の主体毎に環(環境省)、農(農林水産省)、国(国土交通省)と区別した。

6 各欄の数字は確認・認定数を表している(平成24年3月31日現在)。